

## インターバンクの声（2017年6月20日）

このところさえない米経済指標の発表が目立ち、年内あと一回はあると思われていたFRBの利上げも怪しくなり始めていたこともあり、昨日の東京市場からロンドン市場にかけてドルの上値が重い状態が続いた。

その後、ニューヨーク市場でもニューヨーク連銀のダドリー総裁の討論会やシカゴ地区連銀のエバンス総裁の講演くらいしか相場が反応しそうなイベントや材料もなく、朝方の時点では静かなまま一日を終えそうな雰囲気だった。

ただ、期待していなかったダドリー総裁の金融政策正常化についての発言がタカ派的だったため、ドルが円やユーロに対して買われる展開となった。

ダドリー総裁は、「インフレ率は望ましい水準を下回っていても、労働市場の改善が続いて賃金も上昇すれば今後加速して2%の目標に緩やかに回帰するだろう」との認識を示し、景気拡大がまだ長期間続くとの確信があったとした。

ドル円は6月2日の米雇用統計発表前の111円台後半に近づきつつあるが、もう一段の上昇にはもう一つか二つ、追加のドル買い材料が欲しい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。